

第3学年 外国語活動学習指導案

月日：11月6日（水）

T1：安藤 由希子

T2：高橋 守

ALT：Allison Ahlberg

1 単元名 Unit7 This is for you. 「カードをおくろう」

2 単元の目標

- 日本語と英語の音声の違いに気付き、形の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。（知識・技能）
- 身近な人に感謝の気持ちを伝えるカードを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。（思考・判断・表現）
- 相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねようとしたり、答えようとしたり、自分の作品を紹介しようとしたりする。（主体的に取り組む態度）

3 指導にあたって

（1）単元について

本単元は、“What do you want?” “～, please.” という表現を使って、相手に欲しいものを聞いたり、自分が欲しいものを相手に伝えたりすることをねらいとしている。

児童はこれまでに、Unit3で1から20までの数、Unit4で色、Unit6で大文字のアルファベットについて学んできている。本単元では、形を表す単語や欲しいものを尋ねる表現に出会うが、これまで学習してきた慣れ親しんだ語句や表現を、繰り返し活用しながら学ぶことができる単元である。

また、世界のグリーティングカードを知ることで、異文化への理解が深まり、日本の文化の良さにも気付ける単元である。

（2）指導について

- ① これまで外国語活動で大切にしてきたことを本単元でも大切に指導していきたい。

・ 音（音声インプット）

始めは文字や映像なども見せなかったり、文字を提示しなかったりすることで、「音（音声インプット）」を大切にしたい。話すことを急がせないようにしたい。

・ 推測する力

単語や文の意味は、明示的に指導するのではなく、その言葉が使われている場面や状況などから推測してつかませたい。本単元でも、ALTからのアメリカの文化に関する話を聞き、知っている単語や文脈から推測して話のおおよその内容をとらえられるような経験を積ませたい。

・ 意味のあるやり取りを通した相手を大切にするコミュニケーション

単なるゲーム的なものではなく、意味のあるやり取りを中心にしたコミュニケーションを大切にさせたい。その中で、相手の言葉を大切に受け取って、確認のために繰り返したり、聞き取れなかったら聞き返したりすることも意識させたい。

・ 身に付けた知識及び技能を児童が選択しながら活用する活動の充実

そのUnitで学習する表現だけでなく、これまで学習してきた表現をやり取りの中に意図的に入れて、繰り返して学ぶことができるようにしたい。Unit6と朝学習で行ってきたアルファベットに関しては、まだ個人差が大きいので、本時では、文字を書くか、なぞるかでは自分で選択させたい。

② 言語活動について

1 教時目で知ったアメリカのカード文化の体験として、アルファベットを使ってカードを作る。カードを送る相手は、いつもお世話になっている先生に感謝の気持ちを伝えるということで、子どもたちの意欲や思いを大切にしたい。Unit5 で先生方に好きなものをインタビューしたことともつなげたい。

〈目的〉 自分がお世話になっている先生方に、自分がデザインしたカードを作って贈り、感謝を伝えるため。

〈場面〉 ・ 感謝のカードを作るための材料を、英語圏の国の材料屋さんで、店員さんとのやり取りを通して手に入れようとしている場面。

・ お礼を伝えたい先生方に感謝の気持ちを伝えるカードを紹介しながら渡す場面。

〈状況〉 注文はドライブスルーで行う。

③ 単元の流れについて

本単元の導入では、世界のグリーティングカードを知ったり、アメリカ出身である ALT の話を聞いたりすることで、異文化に触れ、さまざまな文化や習慣があることに気付かせたい。そして、カードが使われる場面や状況がちがっても、「相手のことを思って自分の心を伝えるためのもの」ということに気付かせ、単元の言語活動につなげたい。図画工作科と合科的に単元を組むことで、外国語活動の時間では、やり取りをたっぷりできるようにする。その中で、扱う表現を少しずつ広げていくことで、やり取りを繰り返す中で表現に慣れ親しめるようにしていく。

4 単元計画

時間	学習活動	知	思	主
1	- 世界のグリーティングカードについての映像資料を見て、気持ちを届け合うさまざまなカードがあることを知る。 - ALT の話を聞いて、アメリカの文化に興味を持ち、日本とアメリカの文化の違いに気付く。 - T1、T2、ALT の作成した THANK YOU カードを見て、最終活動への見通しをもつ。		.	
2	形の言い方と “What do you want?” の表現を知り、慣れ親しむ。	.		
(図画工作科)	だれに、どんな思いを届けたいかを大切にして、自分が作りたいカードのデザインを考える。			
3	お店屋さんとお客さんに分かれて、やり取りを行う。(形、数、色) (扱う形: square, rectangle, diamond, triangle)	.	.	
4 (本時)	お店屋さんとお客さんに分かれて、やり取りを行う。(形、数、色、大きさ) (扱う形: heart, star, circle)	○	○	.
(図画工作科)	集めた材料を使って、カードを作る。			
5	でき上がったカードを、先生方に紹介して渡す。	○	○	○

・ 指導に生かす評価 ○ 記録に残す評価

5 本時の学習

(1) 目標

感謝の気持ちを伝えるカードを作るのに必要な材料を買うために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。

(2) 指導過程 (4/5時間)

学習活動 主な発問 (○) 指示 (△)	指導上の留意点(・) 評価(◎)
1 Greeting Let's sing "Skidamarink". 2 Warm-up (TPR, songs) カードづくりにひつようなざいりょうを注文して手に入れよう。 相手に伝わるように工夫しながら、ほしいものをたずねたり答えたりして、やり取りをしよう。 3 活動のデモンストレーション 4 ロールプレイ 5 やり取り (C:お店屋さん c:お客さん) 〈やり取りの流れの例〉 C: May I help you? c: Yellow stars, please. C: Yellow stars? c: Yes. C: O.K. Big or small? c: Small. C: Small, O.K. How many? c: Three, please. C: Three? O.K. Three small yellow stars. Here you are. c: Thank you. C: Bye. c: Bye. △ Change your roles. 5 振り返り	・ 「英語の世界」に誘う。 ・ 既習事項の確認を通して、和やかな英語学習の雰囲気を作る。 ・ 文字や指さし、ジェスチャーなどに頼らずに、言葉でのやり取りにチャレンジさせるために、ドライブスルーで音声のみで注文する場面を設定する。お店屋さんとお客さんの間の距離をとり、Fingertip Communication を意識させる。 ・ やり取りは、ペアごとに行う。お店屋さんのペアは、一人はお客さんとやり取りをし、聞き取ったことをもう一人のペアに伝え、バックヤードから品物を持ってくることにする。 ・ 相手の言葉を受け取って、確認のために繰り返したり、聞き取れなかったら "Pardon?" や "One more time, please." と聞き返したりさせたい。そのような相手に伝わるような工夫をしながらやり取りをしている児童の姿を中間指導で取り上げたい。 ・ 疑問文の音調の違いをとらえている児童がいれば、中間指導で紹介する。 ・ 「音」を大切にするために、黒板には、単語や文を文字として提示しない。 ・ 困ったときのよりどころとして、やり取りの流れが分かるように、conversation map を黒板に掲示する。 ・ 正確に言うことよりも、話そうとしていることを認めていきたい。 ・ 必要なものを買って終わった子は、前時で扱った形も含めて追加で買うことができるようにする。 ◎ 色や形、数などについて、“～, please.” という表現を用いて、欲しいものを伝えている。 (知識・技能) ◎ 相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。 (思考・判断・表現)